

—動き出した追浜に想う

この街の活気は、横須賀でも一番の追浜工業団地からの影響を受け、繁栄や停滞を繰り返してきたと考えます。行政センター勤務から追浜と関わりが5年目を迎え、現在、工場城下町から工業も取り込む、地域主体の街に変貌してきているように思います。

この街の工業の歴史の一つは、戦後の混乱期に占領軍の自動車修理に目を付けた、米陸軍特需会社の富士自動車が、旧海軍追浜飛行場跡に進出したことがあります。俗にいう富士モーターは、昭和25年の朝鮮戦争勃発を契機に、軍用自動車の修理、解体、再生事業を手掛け短期間で大きく成長しました。昭和30年、朝鮮戦争の終結し戦争と共に育った企業の従業員が、3000人解雇され解雇反対のストライキや街頭デモが行われたそうです。この騒動に駅前の街頭は、「人員整理のない富士モーターの再建を祈る・追浜ぎんざ会」の看板が立てられ、商店街はその影響から低迷を心配したと思います。

時がたち、現在、街は自らの力で変貌するため、行政、各団体と地域の人々が連携し努力を重ね、先日の追浜ハロウィンなど目に見えた展開を示しています。「アクションおっぱま」もその一員として、第3海堡の活用、ルネ追浜のコンシェルジュなどから「新たな街づくりへの挑戦」に取り組み、今後も貢献したいと考えます。

(青木 猛副理事長)

—都心に近い・追浜の街づくり

追浜は、町内会の活動、福祉の活動、地域観光協会の拡大、名物イベント「Yフェスタ・おっぱま」の継続開催等、低迷している社会から見ると市民活動の盛んな街である。

現在、地域運営協議会もスタートし、本市9行政センターのモデル地区として住民の絆も深まっていると考える。現在、「ルネ追浜」「ザパークハウス追浜」に新たな住民が住み、「次世代へのふるさと創り」の芽が生れている。「NPOアクションおっぱま」がルネのコンシェルジュとして活動している。

幕末、米国ペリー提督一行が夏島周辺の海図作成のため、夏島に上陸し周辺をアメリカンアンカレッジと呼び、160年の歳月が流れた。ペリーは、日本が「鎖国を解き世界の機械的技術、文化、情報が自由に入ってくれば、今は農漁業の道具を見ても粗末であるが、その高い技術力は欧州諸国や米国と競う国になる」と予言している。

大正元年に追浜で初めて旧帝国海軍が仏・ファールマン式水上飛行機を飛行させ100年が経ち、終戦直前にもロケット機「秋水」を打上げペリー予言は的中したと考える。戦前の海軍航空技術廠の研究は、戦後にその技術力を平和産業に引継ぎ、新幹線の開発や国産旅客機YS-11を完成させた。現在も、歴史に学び世界に誇る日産のEV車、住重の造船技術、海洋の深海探索など、追浜の街をさらに元気にさせたいと思う。

(福島 仁副理事長)

” 明治からの軍事遺構は語る ” ～地盤工学会講演報告～

追浜ゆかりの地域資産である貝山地下壕と第三海堡遺構につき、地盤工学の専門家の皆さんによる講演会が、去る9月22日追浜コミュニティセンター北館にて行われ、聴衆約200名（うち半分が地元追浜のひと）と盛況でした。やはりプロの方の話は面白くて、思い付くままにあげれば：●貝山地下壕は、掘った時期がかなり長く



て大正6年（1917）ごろから終戦（1945）に至る30年近い年月がかかっているらしいということ。従い、終戦時の緊急避難的防空目的だけでなく、関東大震災（1923）の教訓で保管倉庫は地上より地下が良いという防災上の目的もあったようで、掘る技術も発破、削岩機利用した機械掘りがかなり進んでいたようです。これは、A、B壕に比べ上部坑道が整然としっかりした作りになっていたのを思うとなるほどと思いました。

●第三海堡は、明治から大正にかけての30年で水深40mに人工島を作るとい難工事だったわけですが、それから100年後の最近完成した羽田空港D滑走路の工事が100年前とほぼ同じやりかただったと言う話。先ず囲いを作って埋め立てするという手順は同じ、捨石傾斜護岸、埋め立て時の地盤安定、地盤改良工法などGPS、マルチなど最新技術は投入されてもやってることは今も昔も同じではと・・・。羽田の時も捨石護岸工事は潜水士が潜って作業している写真が紹介ありましたが、100年前もそうだったのだと言う思いでした。（村澤 醇治理事）

9月22日開催

歴史遺産活用とまちづくりに関する講演会報告

第三海堡などの国防遺産などを保存し、まちづくりに活用をして行こうという考えの追浜にとってとても意味のある講座でした。また岡田先生の国内外の事例の話はとてもわかりやすい内容でした。とくにイギリスの活用事例は追浜のまちにとって参考になるお話でした。

・ミュージアムとしての活用



- ・ イベントによる活用
- ・ 住宅に活用
- ・ 飲食店や庭園化による活用
- ・ 船を利用した楽しみツアーなどの活用

このような活用事例などのお話しを聞き、追浜でもいろいろなまちづくりの方向を検討していきたいと思いました。また今回は午前中に土木学会の第三海堡の講演会と見学会が行われたこともあり、参加者が少なかったのですが是非またこのような機会を持ち、追浜でいろいろ考えていきたいものと思いました。

近代化遺産は多くの市民の理解を得やすいが、国防遺産の保存については平和との兼ね合いで賛否が出るところです。例えばイギリスの例でもナチスの要塞について同じ論議があったようです。しかしマニア的な人たちだけで保存活用を考えていては一般の市民に関心を持ってもらえません。その意味で多様な活用について追浜でも検討していくべきということを強く感じた講演会でした。（吉田洋子理事）



ワイン研究会だより



おっばまワイナリーでは、丸7年を経て大びんにして約25,000本のワインの醸造をおこないました。これもワイン研究会のメンバーのボランティア活動、地域への愛着の賜物により、ワインを造り続けてこられたのです。

もともと地域活性化のもと、空き店舗対策の一環で始めたので、おっばまワインを知ってもらう為の販路拡張に様々な試みをしております。

この度、10月17日、横浜ランドマークタワーにてNTT東日本主催の異業種交流フォーラムへの講演依頼がありましたので、テーマを「地域のつながりで醸成した横須賀おっばまワインで街づくり」とし、講演をお引き受けしました。

当日は、102社170名の聴衆者の前で、ワインだけでなく、追浜の魅力をお話しさせていただきました。これからも様々な機会をとらえ、販路につなげていきます。

ワイン研究会のメンバー、そして地域の皆様に感謝しながら、これからもワイン醸造に携わっていきますのでご協力の程よろしくお祈りします。
(古澤 昭理事)



ルネ追浜 親子サロン

ルネ追浜にはたくさんの赤ちゃんや幼稚園に行く前の子どもがいます。話すきっかけがあれば、子育てのことや新しいまちの情報交換など、時々皆で集まって自由に過ごせる場ができてくるものです。

そんな、きっかけづくりの場として、「親子サロン」を月1回、キッズコーナーで開催することになりました。おルネ追浜の公共スペースを、できるだけ活用いただくことも、目的の1つです。

7月の第1回目は、アクション追浜の理事の方にもお手伝いをいただいて、絵本の読み聞かせや、お絵かき、折り紙のミニイベントも用意して、はじめましてのママや子どもたちなど、楽しく過ごすことができました。回を重ねるにつれて、生まれたての赤ちゃんを連れたママたちが、普通におしゃべりを楽しんだり、子ども同士が自由に遊んだり、気軽な雰囲気もでき

ました。

この場合は、コンシェルジュが企画して用意していくより、ここに住まう人達が自分たちで自由に運営して継続していけることが最終目的です。すでに子育てが終わった方たちも若いママさんたちと一緒にお茶を飲んだり、子育てのヒントを伝えたり、パパ同士が会話をかわすきっかけになったり、いろいろな人達が自由に集える場所を目指しています。

(菊地真紀子会員)



「絵地図 おっぱま再発見！」 ができるまで

追浜のまちには歴史的な遺産や面白いものがいろいろあるようだけれど今ひとつつかめない、という声をよく聞きます。そこで2011年度作成したのが「絵地図 おっぱま再発見！」でした。

これは既に会員の皆様にお送りしたのでご存知のことと思います。幸いご好評いただきましたが、一部誤りがあるとのこと指摘もあり、残部僅少になりましたので改訂版を出すこととなりました。

この絵地図の作成にあたっては、2011年6～7月にかけて、絵地図師・高橋美江さんを講師に「絵地図ができる！おっぱ再発見講座」（追浜コミュニティセンター）を開催しました。20名ほどの受講者が集まり、まち歩きで収集した情報を大きな地図に記入しながら、まさにわがまち追浜を再発見をしたのでした。

当初黒白の地図でしたが、やはりカラー版がみたいとの要望が多く、スポンサーを募ってカラー版を作成した次第です。

絵地図に仕上げた高橋さんの腕前もあり、カラー版を見た方々から、「知らないことがいっぱい載っている」「追浜がいいところにみえる」などの賛辞をいただきました。

改訂版は残念ながらスポンサーが見つからず1部100円の有償頒布になります。こみゅに亭カフェで発売中ですので、追浜散歩のお供にぜひご活用ください。

(昌子住江理事長)



絵地図講座の様様



最初の絵地図

イベントプレイバック

2011年10月～2012年9月	
10月21日	民謡と三味線の夕べ
11月18日	おっぱまワイン寄席（柳家喬太郎）
12月23日	ヘルマンハーブミニコンサート
12月24日	クリスマス JAZZ コンサート
3月中	カンタ展（バングラデシュの刺し子）
4月21日	ワインを飲みながらカントリーミュージック（The Timeless Band）
6月30日	弾き語りライブ（太田 誠）
9月29日	ドラゴンカフェ 2011 サマーコンサート（古田隆一）



ヘルマンハーブコンサート



カンタ展

編集後記

最近の理事会では追浜のまちの将来について語り合うことが多いです。最初は空き店舗が増えたね、工業地帯はどうなるのだろうか。そんな問題点から話が始まるのですが途中から皆『追浜のまち』の夢を語り始めます。

- ・歴史的な建造物は残したいね。
- ・皆で植えたあんずでワインを作りたいね。
- ・NPOに若い人を増やしたいね。
- ・追浜の昔のものを、博物館を作って展示したいね。

などなどです。議論は白熱します。結局のところ皆追浜のまちが好きなんです！！

(吉田洋子理事)

会報 2012年11月発行 5号

- ・発行 特定非営利活動法人アクションおっぱま
〒237-0066 横須賀市追浜町 2-13
TEL 046-865-2625 FAX 046-866-2790
- ・発行人 昌子住江
- ・編集 内野忠治、菊地真紀子、昌子住江
吉田洋子